

# PerformanceRadar

for Oracle Database

## — 特殊環境へのインストール方法 —

### ご注意

本稿の内容は予告無しに変更されることがあります。

本稿の内容につきましては万全を期しておりますが、本稿中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して、また本稿の適用の結果生じた間接的損害を含め、いかなる損害についても、責任を負いかねますのでご了承ください。

---

### 目次

---

資料の目的 .....	2
複数インスタンス(マルチインスタンス)環境へのインストール方法.....	2
1. 追加の評価対象インスタンスに PRadar リポジトリを作成する。.....	2
2. WAT の「設定」メニューで PRadar リポジトリ作成を行ったインスタンスを登録する。.....	6
クラスタ環境へのインストール方法 .....	9
1. 本番系サーバー側で PRadar のインストール .....	9
2. 予備系サーバーの切り替え.....	9
3. クラスタマネージャーへの設定 .....	10
4. 本番系サーバー側でファイルオーバー構成の設定 .....	11

---

## 資料の目的

本資料は PerformaceRadar(以下 PRadar)をクラスタなどの特殊なシステム環境にインストールする場合の方法、注意点を記述しています。

## 複数インスタンス(マルチインスタンス)環境へのインストール方法

PRadar は、1 台のコンピュータ上で稼動する複数インスタンスを評価することができます。

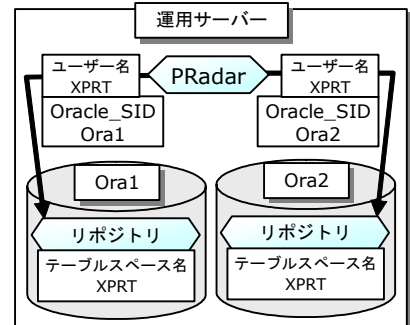
※この場合、購入するライセンス数は 1 つです。

1台のコンピュータ上にある複数インスタンスを評価する場合(右図例参照)の設定手順は次のとおりです。

前提: 最初通常のインストール手順で、PRadar のインストールとリポジトリの作成をしている。

1. 同一コンピュータ上の追加の評価対象インスタンスに PRadar のリポジトリを作成する。
2. WAT の「設定」メニューで追加で PRadar リポジトリ作成を行ったインスタンスを登録する

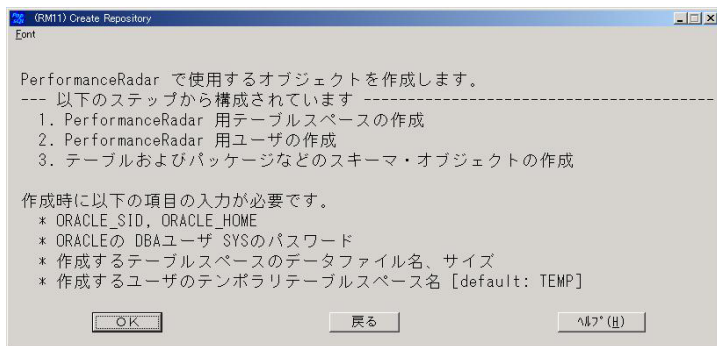
例 1. 複数インスタンス評価



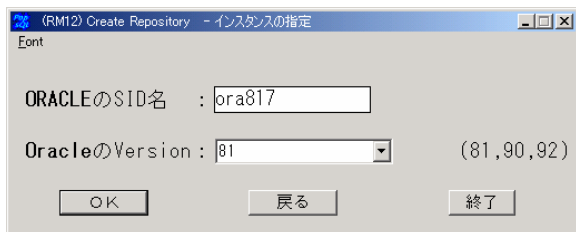
### 1. 追加の評価対象インスタンスに PRadar リポジトリを作成する。

「スタート」-「プログラム」-「PerformaceRadar」-「Tools」-「PRadar リポジトリ作成」を実行して、PRadar リポジトリの作成を開始します。

(1).起動画面のイメージは以下のようになります。[OK]をクリックします。



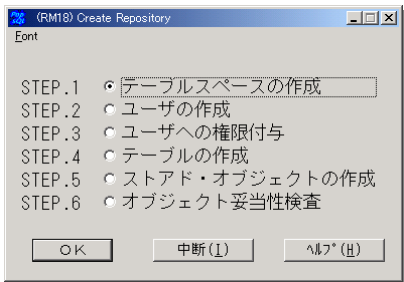
(2).Oracle の SID 名と Oracle の Version が表示されますので内容を確認し、[OK]をクリックします。



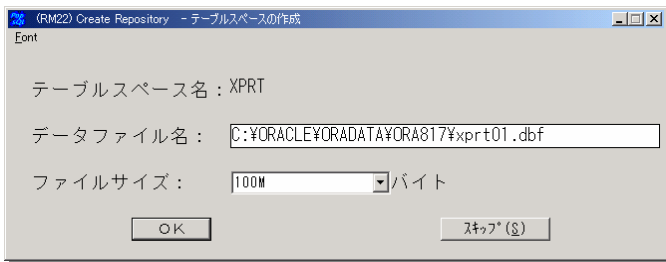
(3).Oracle の sys ユーザーのパスワードを入力し、[OK]をクリックします。



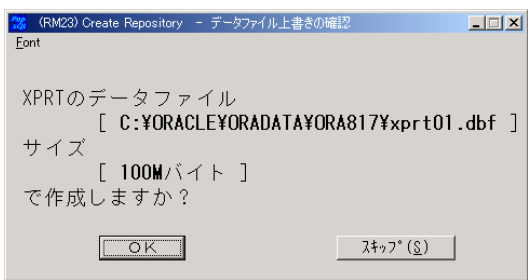
(4).PRadar が使用するテーブルスペースの作成を行います。STEP.1 が選択されていることを確認して、[OK]をクリックします。



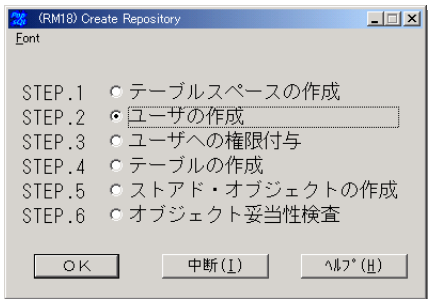
(5).PRadar が使用するテーブルスペース名とデータファイル名が表示されます。データファイル名とファイルサイズの変更がなければそのまま[OK]をクリックします。



(6).確認画面が表示されますので内容を確認し、[OK]をクリックします。テーブルスペースが作成されるとメッセージが表示されますので、[OK]をクリックします。



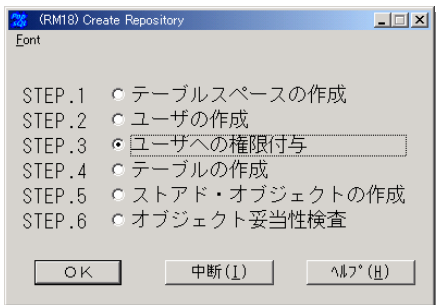
(7).PRadar が使用するユーザーの作成を行います。STEP.2 が選択されていることを確認して、[OK]をクリックします。



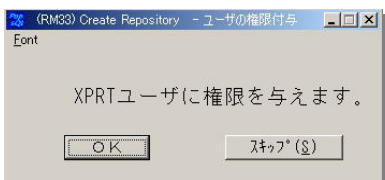
(8).PRadar のユーザー情報とテーブルスペース名が表示されます。テンポラリテーブルスペース名の変更がなければそのまま[OK]をクリックします。ユーザーの作成が終了するとメッセージが表示されますので、[OK]をクリックします。



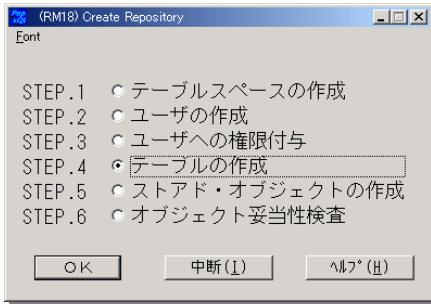
(9).PRadar が使用するユーザーへの権限付与を行います。STEP.3 が選択されていることを確認して[OK]をクリックします。



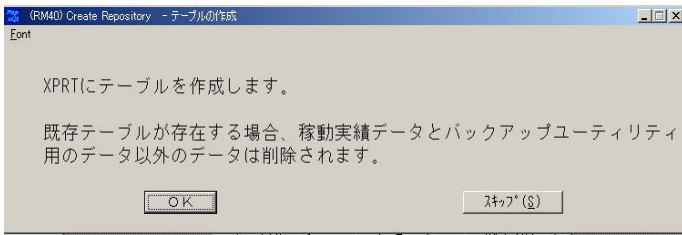
(10).メッセージを確認し[OK]をクリックします。正常に権限が付与されるとメッセージが表示されますので[OK]をクリックします。



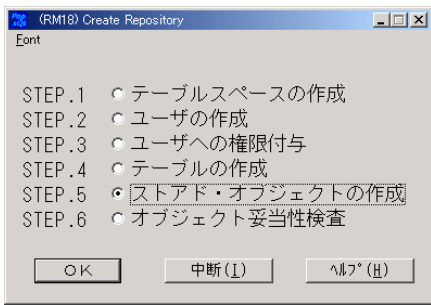
(11).PRadar が使用するテーブルの作成を行います。STEP.4 が選択されていることを確認して、[OK]をクリックします。



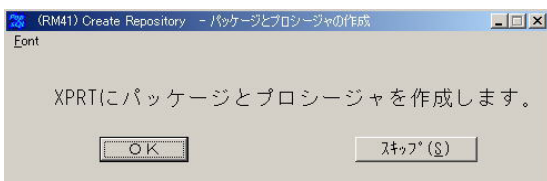
(12).メッセージを確認し[OK]をクリックします。正常にテーブルが作成されるとメッセージが表示されますので[OK]をクリックします。



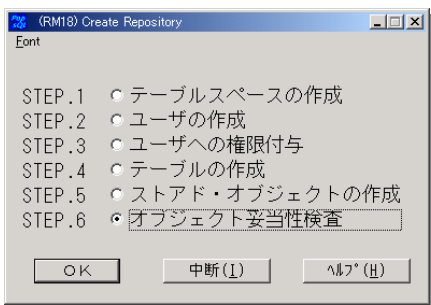
(13).ストアド・オブジェクトの作成を行います。STEP.5 が選択されていることを確認して、[OK]をクリックします。



(14).確認メッセージが表示されますので、[OK]をクリックします。



(15).オブジェクト妥当性検査を行います。STEP.6 が選択されていることを確認して、[OK]をクリックします。



(16).確認メッセージが表示されますので、[OK]をクリックします。

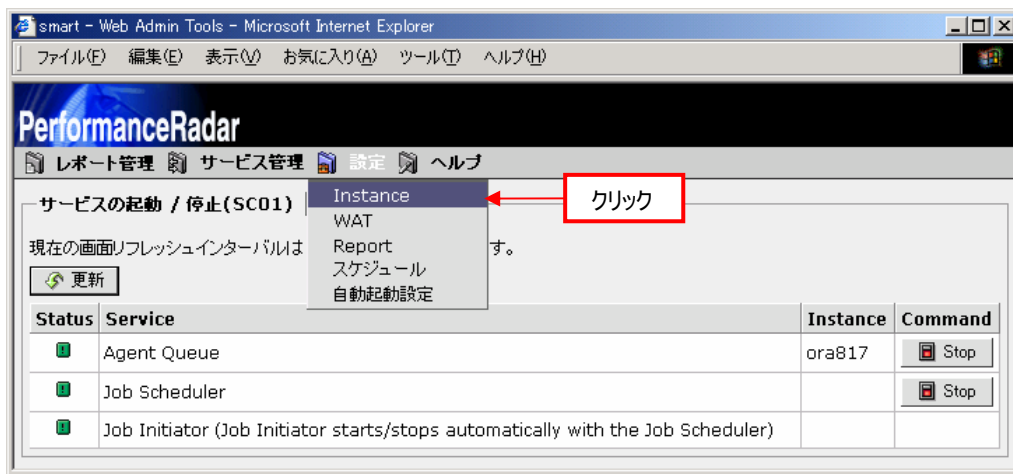


(17).以上で PRadar リポジトリ作成は終了です。



## 2. WAT の「設定」メニューで PRadar リポジトリ作成を行ったインスタンスを登録する。

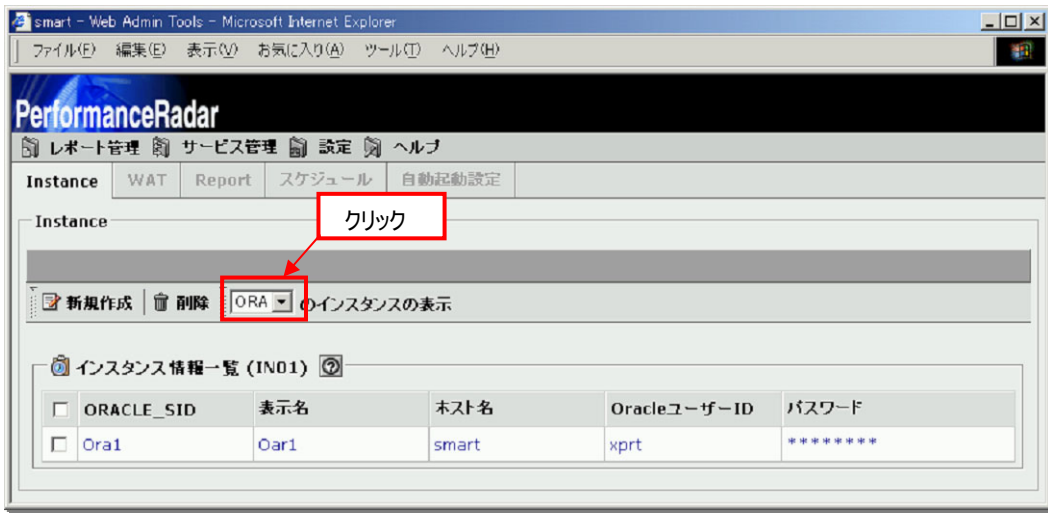
(1).PRadar に接続し、WAT(Web Admin Tools) に [アドミニストレータツール] ログイン後、[設定] メニューの [Instance] をクリックします。



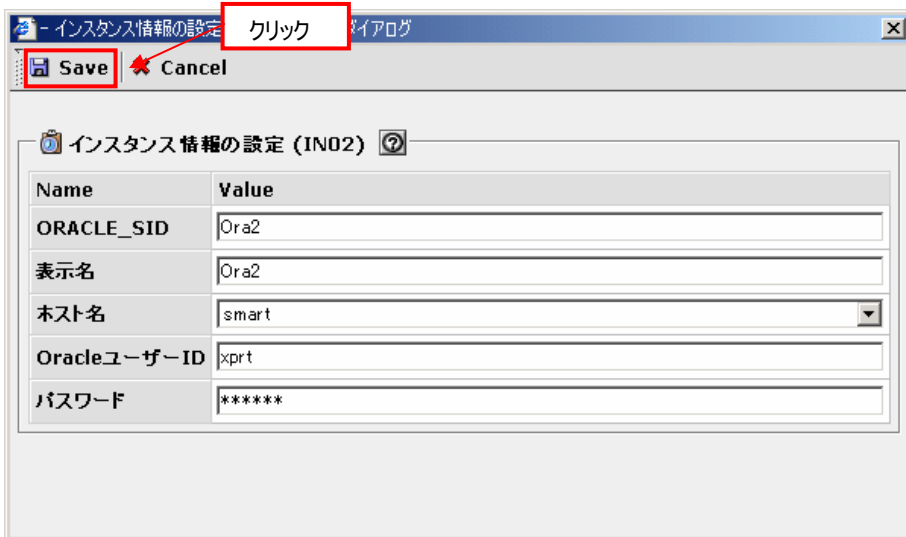
(2).インスタンス情報一覧画面が表示されます。リストボックスより[ORA]を選択します。



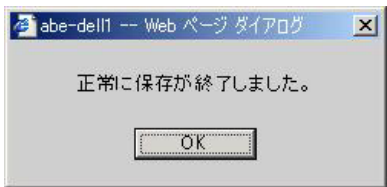
(3).Oracle のインスタンス情報一覧が表示されます。[新規追加]ボタンをクリックします。



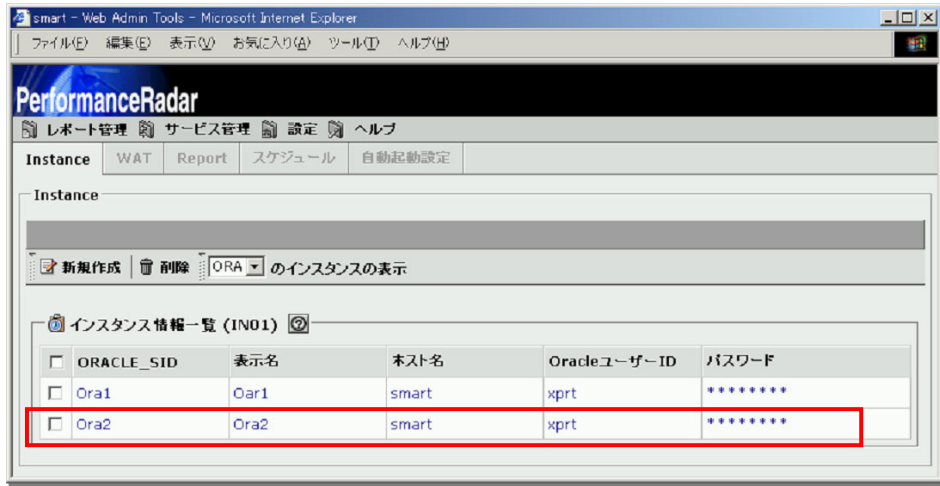
(4) インスタンス情報の設定画面が表示されます。追加するインスタンスの情報を入力し、[Save]ボタンをクリックします。



(5) 正常に処理されると、以下の画面が表示されます。[OK]をクリックします。



(6) インスタンス情報一覧に追加したインスタンス情報が表示されます。



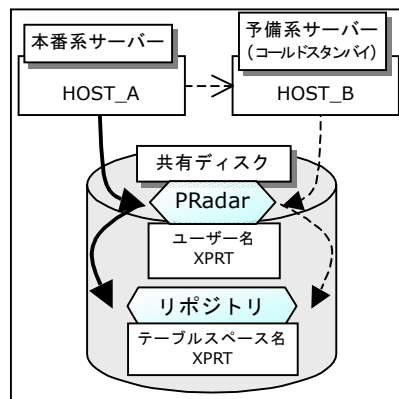
(7) インスタンスを追加すると、Agent Queue も新たに追加されます。「サービス管理」画面で起動状態を確認して下さい。

## クラスタ環境へのインストール方法

ここでは、HA クラスタ構成で最も一般的な本番系サーバーと予備系サーバー(コールドスタンバイ)で構成されるクラスタ構成で、尚且つ Oracle が共有ディスクにインストールされている場合について説明します。

例 2 のように、PRadar プログラムと PRadar リポジトリを共有ディスク上にインストールします。通常時、共有ディスクは本番系サーバーにマウントされています。本番系サーバーで障害が発生した時には、予備系サーバーで共有ディスクをマウントし、サービスを開始します。

例 2. HA クラスタ構成



PRadar は本番系サーバー側および予備系サーバー側の両サーバーでインストールしなければなりません。従って、インストール途中で稼働系の切り替えを行う必要がありますので注意してください。

### 注意事項

フェイルオーバー時、本番系サーバーのレジストリ情報が予備系サーバーに引き継がれるようなクラスタソフトを使用している場合には、インストール操作を行うのは本番系サーバーのみです。(待機系サーバーでインストールを行う必要はありません。)

### 1. 本番系サーバー側で PRadar のインストール

- (1).PRadar を本番系サーバーにて、共有ディスク上にインストールします。
- (2).PRadar インストールに続き、PRadar リポジトリを共有ディスク上に作成します。
- (3).インストール完了後、コマンドプロンプトから以下のコマンドを使用して、PRadar 関連のプロセスをすべて停止します。

※PRadar インストール直後は、すべてのプロセスが自動起動しています。

```
C:>¥ istctl stopall
```

### 2. 予備系サーバーの切り替え

- (1).予備系サーバーに PRadar をインストールするために、予備系サーバーを本番系サーバーへ切り替えます。予備系サーバー(切り替えているので、現在は本番系サーバーとして動作しているサーバー)に、本番系サーバー同様に PRadar のインストール操作を開始します。この際、1. でインストールした PRadar のインストールフォルダと同じ Path にインストールしてください。

- (2).共有ディスク部分に既存データ(PRadar 表領域、データファイル、ユーザー)が存在するのでインストールチェックは1度エラーとなります。チェック結果画面(htmlの画面)を閉じ、その状態から以下のファイルを編集して上書き保存したあと、インストールを継続してください。

◆インストール環境ファイル (PIObjectInstallBatch.env)

¥¥[インストールドライブ]¥¥Documents and Settings¥¥[ログオンアカウント名]¥¥Local Settings¥¥Temp¥¥PIObjectInstallBatch.env

の以下の項目を NG から OK に変更する。

※エクスプローラのフォルダオプションにて「すべてのファイルとフォルダを表示する」にチェックを入れてないと表示されないフォルダがありますのでご注意ください。

```
LET XPRT_DATAFILE_EXIST_STATUS = 'OK'  
LET XPRT_TABLESPACE_STATUS = 'OK'  
LET IST_USER_STATUS = 'OK'
```

◆インストールチェック結果ファイル(installCheck.ini)

¥¥[インストールドライブ]¥¥Documents and Settings¥¥[ログオンアカウント名]¥¥Local Settings¥¥Temp¥¥installCheck.ini

の以下の項目を NG から OK に変更する。また、リポジトリの作成を行なわないようにパラメータを設定する。

※エクスプローラのフォルダオプションにて「すべてのファイルとフォルダを表示する」にチェックを入れてないと表示されないフォルダがありますのでご注意ください。

```
CHECK_STATUS = OK  
NO_CREATE_REPOSITORY = TRUE
```

(3).インストールを継続します。インストールを実行すると、共有ディスクの既にインストールされている PRadar と同じ場所に上書きインストールを行うこととなりますが、これは予備系サーバーのレジストリ上に PRadar の情報を作成するためです。

(4).インストール完了後、コマンドプロンプトから以下のコマンドを使用して PRadar 関連のプロセスをすべて停止します。

```
C:>¥istctl stopall
```

(5).インストール操作は完了です。必要に応じて、予備系サーバーから本番系サーバーの切り替えを行って下さい。

また、コマンドプロンプトから以下のコマンドを使用して PRadar 関連のプロセスを開始してください。

```
C:>¥istctl startall
```

### 3. クラスタマネージャーへの設定

フェイルオーバー時に、予備系サーバーで PRadar のサービスが起動されるよう、クラスタマネージャーなどに登録をします。サービスの登録に関しては、ご使用クラスタソフトなどのサービス切り替え用スクリプト導入方法をご参照いただき、PRadar のサービス起動用コマンドを記述してください。また、クラスタソフトの種類によっては、サービス登録方法や使用時の制限などに差異があります。詳しくはご使用クラスタソフトのマニュアルを参照してください。

クラスタマネージャーに PRadar のサービスを登録する場合のポイントは 2 点あります。以下に大まかな手順を説明します。

(1)PRadar サービス停止時に、他の関連するプロセスを停止するコマンドファイルを作成する

A).PRadar のサービス停止時に実行されるファイルとして、以下の 1 行のみを記述したファイルを新規作成します。

```
SYSTEM istctl killall
```

B).ファイル名を「istpsmdown.job」として、以下の場所に保存します。

¥¥ [インストールディレクトリ] ¥¥admin

C).これにより、PRadar のサービス停止時に関連するプロセスがすべて停止されるようになります。

(2) PRadar サービスを Oracle に依存するサービスとして登録する

A).PRadar のサービスをクラスタマネージャーに登録する。

PRadar のサービスである istpsm service を、クラスタマネージャーのリソースとして登録します。その際に Oracle に依存するサービスとして登録する必要があります。依存関係の定義により、停止時は PRadar → Oracle の順番で停止し、起動は Oracle → PRadar の順番で起動するようになります。

#### 4. 本番系サーバー側でフェイルオーバー構成の設定

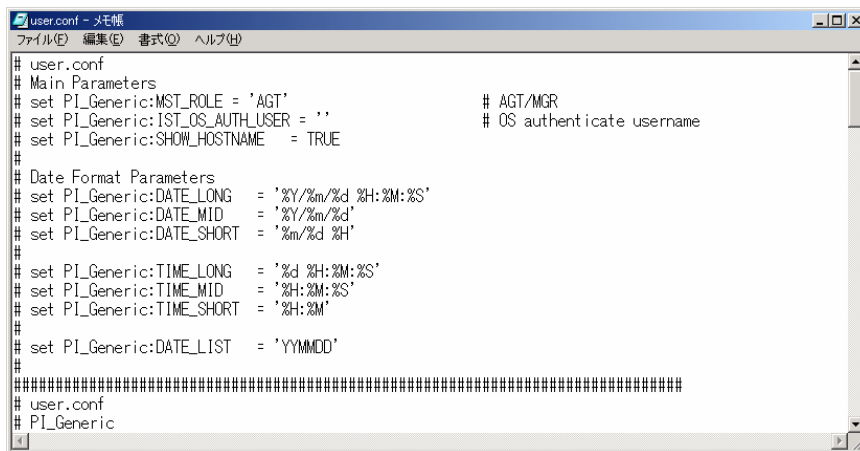
通常、本番系サーバー (HOST\_A) で障害発生時には、予備系サーバー (HOST\_B) で共有ディスク(IST\_USR\_HOME) をマウントしますが、PRadar のデータの持ち方が、「\$IST\_USR\_HOME/\$HOST/\$ORACLE\_SID/」というパスになっており、フェイルオーバー時には参照するホスト名が異なってしまうため、切り替え前のデータを参照することができません。次の設定をし、系が変わってもデータが参照できる様に対処してください。

##### 注意事項

フェイルオーバー時、IP アドレス、HOST 名が予備系サーバーに引き継がれる時は必要ありません。

(1). WAT から[サービス管理]-[ステータス] を起動し、Agent Queue、Job Scheduler を停止。

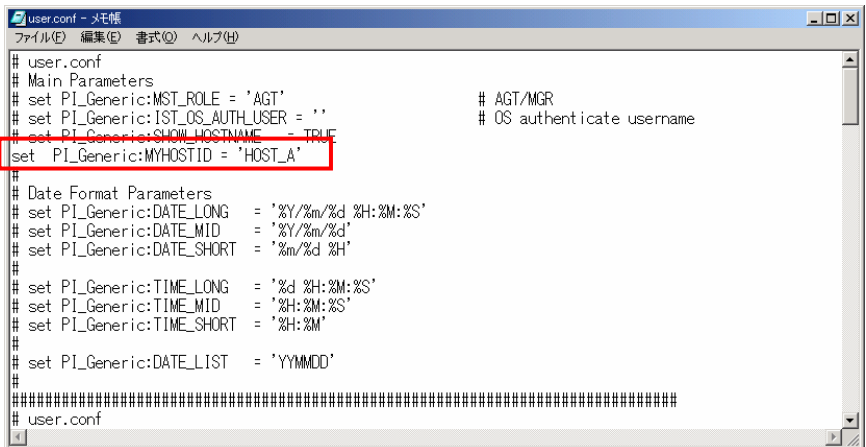
(2).ホスト名を設定するために、¥¥[インストールディレクトリ]¥etc¥user.conf をテキスト表示します。



```
# user.conf
#
# Main Parameters
# set PI_Generic:MST_ROLE = 'AGT' # AGT/MGR
# set PI_Generic:IST_OS_AUTH_USER = '' # OS authenticate username
# set PI_Generic:SHOW_HOSTNAME = TRUE
#
# Date Format Parameters
# set PI_Generic:DATE_LONG = '%Y/%m/%d %H:%M:%S'
# set PI_Generic:DATE_MID = '%Y/%m/%d'
# set PI_Generic:DATE_SHORT = '%m/%d %H'
#
# set PI_Generic:TIME_LONG = '%d %H:%M:%S'
# set PI_Generic:TIME_MID = '%H:%M:%S'
# set PI_Generic:TIME_SHORT = '%H:%M'
#
# set PI_Generic:DATE_LIST = 'YYMMDD'
#
#####
# user.conf
# PI_Generic
```

(3).PRadar が参照するデータの保存先設定を追加するために、任意のホスト名を以下の行のように追加し、保存します。

```
set PI_Generic:MYHOSTID = 'ホスト名'
```



(4).コマンドプロンプトから以下のコマンドを使用して、編集した設定ファイルを反映させます。

```
C:>¥ mkconf mkconf_user
C:>¥ mkconf mkinstance_default
```

(5).WAT から[設定]-[Instance] を起動し、表示された SYS、及び ORA のホスト名が変更されているか確認。

インスタンスID	表示名	ホスト名	管理ツールURL	OS名
@SYS	@SYS-Myhost	Myhost	http://Myhost:13116/	WINDOWS-NT

ORACLE_SID	表示名	ホスト名	OracleユーザーID	パスワード
<input type="checkbox"/> ora9i	ora9i-Myhost	Myhost	xprt	*****

(6).WAT から[サービス管理]-[ステータス] を起動し、Agent Queue、Job Scheduler を起動。

(7).以上で設定は完了です。